クローバーだより

10月号

2019年10月25日
名古屋柳城短期大学附属
三好丘聖マーガレット幼稚園
林　知子

前回に引き続き、「失敗を恐れるようになったら～前編 PART2～」をお伝えしていきます。

失敗を恐れる子は、その物事に取り組む意欲がないのでしょうか？それとも自信がないのでしょうか？そのお子さんの状況によっては両面とも考えられる場合があります。
では、意欲・自信はどのように身に付いていくのでしょうか？

> 意欲とは・・・自分で進んで何かをしようと思うこと。また、その心の動き。
> 自信とは・・・自分で自分の能力や価値などを信じること。自分の考えや行動が正しいと信じて疑わないこと。

意欲と自信、どちらとも『自分で』という言葉が初めに入っていますね。『自分で』というのは『自発性』のことです。

自発性とは、他からの影響や強制などではなく、自分から進んで行おうとすること

自発性は幼い時期に育っていくものです。1歳頃より自然と「自分でできるようになりたい」という願望を持つようになります。自分で服を着たい、食べたい、排泄したりしたいと思うようになります。好奇心を持って何回もチャレンジしていく中で少しずつ出来るようになっていきます。

しかし、親の育て方によって、その「自分でできるようになりたい」という願望が抑圧されてしまうことがあります。それが「支配・服従」タイプと「過干渉」タイプです。

> 支配・服従タイプ・・命令や指示ばかりされて親からの強制が多くあること。
> 子どもはその指示に服従しています。
> 過干渉タイプ・・・・親が子どもの意思を聞かず先になんでもしてあげること。
> 子どもはいろいろな経験ができないまま育っています。

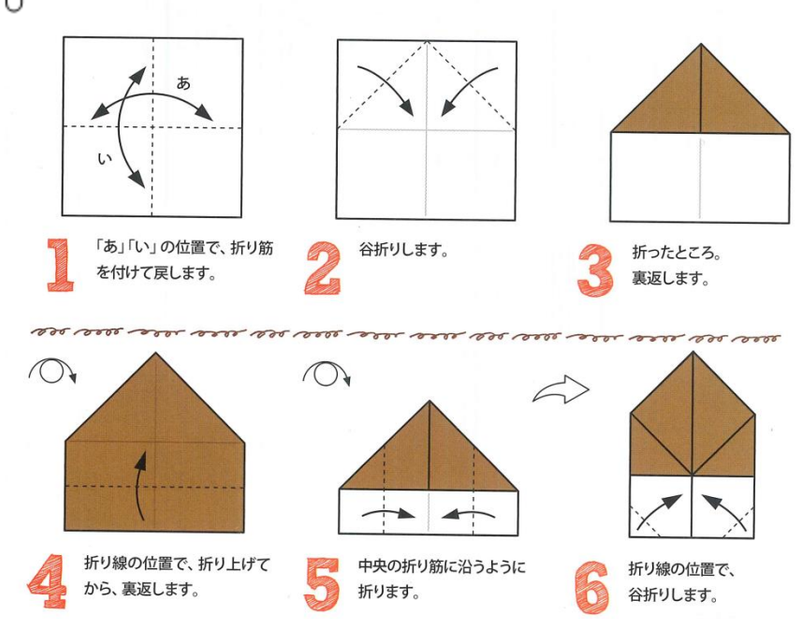
どちらのタイプでも、「自分で自分の意思を決めていく」という経験が全くできずに育つことになります。

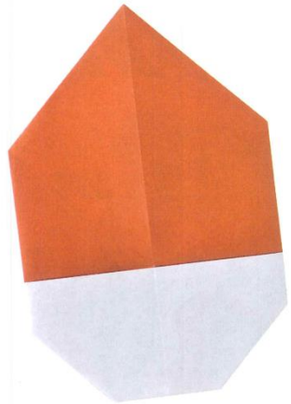
「自分で決める」という能力が育っていかないまま大きくなっていくと、与えられたこと以外しなくなります。また、同年代の子ができることも、手助けなしで自力ではできません。

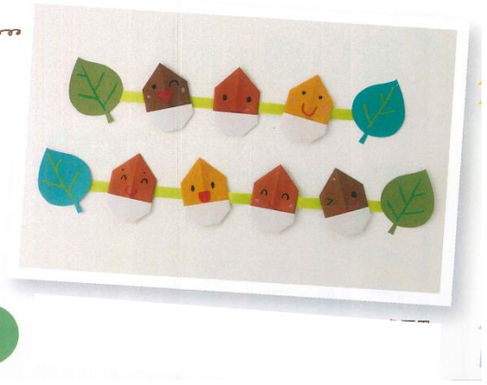
子どもが自発的にやってみたいと思った時に、「やってごらん」とたくさんやらせてもらえたかどうか、そして結果よりもそのやる気を認められたかどうかによって自発性は育まれていきます。やってみたいと思った時に、うまくいかなくてもいい！子どもの気が済むまでやらせてあげてくださいね！！それが、意欲と自信の基礎になっていくのです。

おりがみ折ってみよう！

とってもカンタン！
どんぐり







《子育て相談》

自分の子育てにこれでいいのかな？と不安に思われた時、
こんな時どうしたらいいのと思われた時にお話にいらっしゃいませんか？
保育経験者がお話しさせていただきます。お電話で予約していただき、
ご都合の良い日を決めさせていただきます。
TEL　０５６１－３６－８３７３　　お電話お待ちしています